

<スポーツ庁国庫補助事業>

平成 30 年度地域交流

日中地域交流 現地視察報告



2018/8

海外小学生バドミントン国際交流事業
京都府長岡京市

【主 管】長岡京市体育協会

【視察員】日本スポーツ協会 国際課

(小野寺課長・高際)

はじめに

日本スポーツ協会における地域交流¹は、2002年ワールドカップサッカー大会の日韓共同開催を記念して平成9（1997）年から開始した日韓交流を契機に、地域レベルでのスポーツ交流の拡大につなげていくことを目的に平成15（2003）年から開始しました。

その後、平成19（2007）年に日中両国政府により実施された2007「日中文化・スポーツ交流年」を皮切りにスタートした日中交流にあわせて日中地域交流を開始するとともに、平成28（2016）年には、ロシアとの地域交流支援へと拡大を図り、現在 3 カ国の地域スポーツ交流を支援する枠組みとして実施しています。

近年外交や地域振興等のツールとしてスポーツの価値が見いだされ、スポーツを通じた様々な社会貢献活動が国内外で展開されていますが、本会もこのような情勢を踏まえながら、より多くの地域間スポーツ交流を支援していく取組みを強化してきています。

一方、国は平成29（2017）年に第 2 期スポーツ基本計画を策定し、スポーツで「人生が変わる」、「社会を変える」、「世界とつながる」、「未来を創る」という 4 つの基本方針を発表しました。特に「世界とつながる」という点においては、「多様性を尊重する世界」、「持続可能で逆境に強い世界」、「クリーンでフェアな世界」の実現に貢献することを掲げています。

また、本会では平成23（2011）年に発表した「スポーツ宣言日本」の中で提示したグローバル課題の解決に向け、平成30（2018）年から5か年の中期事業方策として「スポーツ推進方策 2018」を策定しました。同方策では、本会が行う「スポーツによる国際交流・協力の推進」の施策の一つとして、各都道府県や市区町村が行う地域交流の財政的支援を掲げ、「各都道府県や市区町村がもつ力を引き出し、また共有することによって、各地域が主体となってスポーツを通じて直接世界とつながることができる環境を創出」することを目指しています。

このような状況を踏まえ、本会では、今後の地域交流の支援策の在り方を検討するため、上記方策の初年度となる平成30（2018）年度に、本会が支援する複数の地域交流の現場視察を行い、今後の委託金制度の改正や展開方法の改善につなげるためのレポートを作成することとしました。

視察では特に現状の制度が、主に資金面の支援である点を考慮し、視察の主題を「資金援助がなくなった際に当該交流事業を継続させる自走システムの構築」とし、現場での課題や、成功事例等を情報収集のため、交流主管団体の担当者および関係者に直接お話を伺いました。

視察を通じ取りまとめた本レポートが、今後の本会での検討における貴重な材料となるだけでなく、地域でのスポーツ交流を進める方々の参考資料としてご活用いただければ幸いです。

目 次

1. 交流概要
2. 視察概要
3. ヒアリング結果
4. まとめ

交流概要

交流名称	海外小学生バドミントン国際交流事業	交流国	中国
交流期間	2018 年 7 月 26 日(木)～8 月 1 日(水)	開催地	京都府長岡京市
交流団体	中国浙江省選抜チーム	実施競技	バドミントン
主管団体	長岡京市体育協会	開催数	新規
選手構成	・長岡京市バドミントンスポーツ少年団 ・若葉カップ全国小学生バドミントン大会参加チーム ・日本小学生バドミントン連盟 U13 強化指定選手	参加区分	小学生
実施経緯	寧波市と長岡京市は 1983 年（昭和 58 年）に友好都市盟約を締結し、以降代表団や友好団の相互訪問の他、過去 8 期に渡る寧波市からの技術研修生受け入れ事業を行ってきた。一昨年に開催されたテニス大会に友好姉妹都市の関係から寧波市から招聘を受け、参加したことによって、引き続き交流をより一層深めることとした。		

視察概要

日程	2018 年 7 月 27 日(土) 10:30～12:00	視察員	2 名 (小野寺国際課長・高際)
視察先	・京都府立乙訓高校 ※台風接近のため午後の視察は中止	視察内容	・日中合同練習
目的	本会の委託する標記交流の様子を視察するとともに、主管団体担当者および参加者から直接話を伺い、本交流の在り方や今後の展開等について検討するため		



ヒアリング結果

◇ 回答者



岡橋 佳輝 さん

Yoshiteru Okahashi

(公財)長岡京市体育協会 職員

本交流の企画・調整および
運営業務を担当



梶原 浩司 さん

Koji Kajiwara

**長岡京市教育委員会
文化スポーツ振興室
室長補佐兼スポーツ振興係長**

◇ 質問事項

1. 委託金制度
2. 実施交流
3. 交流財源
4. 組織間連携①
5. 組織間連携②
6. その他

◇ ヒアリングまとめ

1. 委託制度（回答者：長岡京市体協 岡橋さん）

質問 # 1 :	本会の地域交流（都道府県・市区町村交流）の存在はいつからご存知でしたか。
回答 :	知っていた。2016 年に「テニス競技」の派遣交流を寧波市で行った際も、日本スポーツ協会に委託交流として実施していただいた。それ以前は知らなかった。
質問 # 2 :	地域交流委託制度を利用するメリット・デメリットについて教えてください。
回答 :	主管・共催団体間で賄いきれない経費を本委託金にて補助していただける点は大変ありがたい。デメリットはとくにない。
質問 # 3 :	地域交流委託制度において（経費補助以外で）新たなメリットの創出のアイデアがあれば教えてください。
回答 :	地域交流の対象国が 3 カ国（中国・韓国・ロシア）に限定されているので、ほかの国との交流を実施または発展させていく際に、本委託制度が利用できるようにしていただけると、可能性が広がると思う。 長岡京市は 2017 年度にラオスと同競技・内容で受入交流を実施しているが、対象国ではなかったため本委託制度に申請できなかった。



2. 実施交流（回答者：長岡京市体協 岡橋さん）

質問 # 1 :	準備期間はどのくらいですか。また、相手国との連絡はどの程度の頻度で行いましたか。 (連絡時の言語も教えてください)
回答 :	2017 年 9 月頃から準備している。したがって、準備期間はおよそ 10 ヶ月である。 本交流の連絡・調整全般をお手伝いいただいた浙江省の元バレーボール代表選手である中島 詩帆（劉云）さんが現地の団体と関係があり、本交流実施のきっかけを作っていた。 ※中島さんは今回の交流で通訳としても活動している

質問 # 2 :	一昨年（2016 年）、寧波市から招聘を受けた際の経緯や詳細を教えてください。
回答 :	寧波市と長岡京市は友好都市盟約を締結しており、長年の友好関係がある。 2016 年に寧波市からテニス大会参加のお話をいただいたとき、私（岡橋氏）はプレイヤーとして参加した。 寧波市の秘書部にはニンさんという方がいて、当時のテニス大会招聘事業と、今回のバドミントン交流の担当をしている。ニンさんは日本語が堪能で、現地とやり取りをする上でも非常に助かった。

質問 # 3 :	参加料等、参加者負担等がありますか。ある場合は、内訳を教えてください。
回答 :	参加料はない。渡航費は中国側の負担であるが、内訳や詳細は不明である。 日本国内の経費はすべて主催・共催団体が負担している。 ※交流プログラムの一環として参加する「若葉カップ大会」への参加料についても、中国選手団の負担はない。



3. 交流財源（回答者：長岡京市体協 岡橋さん）

質問 # 1 :	交流先団体と費用分担を行っている場合は、その詳細を教えてください。
回 答 :	交流先団体が負担しているのは中国側参加者の渡航費のみである。

質問 # 2 :	本交流の計画段階の予算編成について教えてください。
回 答 :	長岡京市が約 100 万円（「未来への種まきプロジェクト」（※詳細後述）として予算計上）、長岡京市体育協会が約 60 万円、合計 160 万円規模の予算を編成していた。

質問 # 3 :	本会委託交流に選定されなかった場合、本交流は実施していましたか。また実施していた場合の財源確保はどのように計画していましたか。
回 答 :	実施していた。 しかし、委託交流として内定をいただいていたなら、委託対象経費分は長岡京市体育協会の負担となっていたため、財源の確保には苦慮していただろう。



4. 組織間連携①（回答者：長岡京市体協 岡橋さん）

質問 # 1 :	本交流実施にあたり何団体と組織間で連携していますか（共催・後援含む）。また、その内訳を教えてください。
回 答 :	・長岡京市体育協会 ・長岡京市 ・長岡京市スポーツ少年団 ・日本バドミントン連盟 U13 強化指定選手 ・寧波市のバドミントンチーム（全 6 チーム：男子 3 / 女子 3） 等 ※寧波市のバドミントン競技統括団体とのやり取りではなく、基本はチームに直接コンタクトをとっていた。
質問 # 2 :	交流経費について、団体間での割り振りがあれば詳細を教えてください。
回 答 :	前述のとおり、渡航費以外の費用は、長岡京市体育協会と長岡京市が負担している。他の団体の費用負担はない。 ※「若葉カップ」の参加者には交通費・宿泊費に一部補助が出ており、交流と競技会と抱き合わせることで、実質日本側の参加者負担が大幅に軽減されている
質問 # 3 :	自治体との連携はしていますか。また自治体の政策について、本交流との関連があれば詳細を教えてください。
回 答 :	長岡京市と連携している。 長岡京市体育協会は、長岡京市の地域スポーツ振興政策の一つである「未来の種まきプロジェクト」を連携して計画・実施している。



5. 組織間連携②（回答者：長岡京市 梶原さん）

質問 # 1 : 長岡京市が実施している「未来の種まきプロジェクト」について教えてください。

回答 : 2016 年頃、国から各自治体に対して、東京 2020 オリパラ大会の実施に関連したホストタウン事業の推進について通知があったが、長岡京市で検討した結果、ホストタウンではなく、東京 2020 オリパラ大会や関西ワールドマスタースゲームズ 2021 などのビッグ・イベントイヤーを含む 5 ヶ年計画（2017-2021）で国際青少年交流事業「未来の種まきプロジェクト」を立案し、実施している。

ホストタウン事業においては、基本は 1 国 1 競技を対象とした枠組みで実施されるが、本プロジェクトは、ジュニア世代を対象に、より多くの国と様々な競技で交流することを目的としている点で、事業の持続可能性を高めていると共に、長岡京市の独自性をアピールできていると考えている。

国内で開催される国際スポーツイベントを契機とした取り組みを一過性のものとして終わらせず、長岡京市のレガシーとして継続・発展させるという考えのもと、本プロジェクトで一定の成果を出し、2021 年以降の新たな事業に繋がるよう取り組みたい。

※同プロジェクトは「東京 2020 参画プログラム」の認定を受けている

※同プロジェクトの初年度（2017 年度）はラオスとのバドミントン交流を実施した



『未来の種まきプロジェクト』 関連情報

・長岡京市体育協会だより No.120 2018.6

<http://www.sports-nagaokakyo.or.jp/pdf/taikyou-dayori.pdf>

・東京 2020 参画プログラム

<https://participation.tokyo2020.jp/jp/event/detail.html?id=a090I00000wSOznQAG>

6. その他（長岡京市体協 岡橋さん）

質問 # 1 :	国際交流を実施する上で（または継続する上で）何がポイントになるか、ご意見があれば教えてください。
回 答 :	国際交流の基本は人と人（個人間）のつながりをきっかけに発展し、具体化されていく傾向であると感じているが、一方で、より多くの人を巻き込み、持続可能な交流に展開するためには、個人間のつながり以上に、自国と相手国における行政間のつながりが重要になると思う。 さらに、国内の（地域の）公共団体や行政機関のニーズやビジョンの一致が、国際交流の実施において必要であると同様に、相手国のニーズ自体も把握する必要がある。



まとめ

委託金制度

- 資金源としての委託制度適用は、交流の開催にあたって主管団体の大きな援けになっている
⇒トライアル型で試験的に実施してみたい、と考える団体にとってメリットは大きい
- 対象国の枠を増やしてほしい（特に東南アジア地域）という要望があった。この背景には、東南アジア地域の経済発展や訪日観光客の増加、格安航空路線の拡大などの影響で、東南アジア諸国が以前に増して「交流しやすい国」になっていることが考えられる。

個人間のつながり

- 在日外国人や在外日本人など、個人レベルで地域間の橋渡し役になれる人の存在は重要である
- コーディネーター（連絡・調整係）には、現地と関係を持っている、かつ現地語に堪能な人が適任
- 普段からコーディネーターとなり得る人とコミュニケーションをとることで、潜在的な交流パートナーのニーズを知る機会が増え、交流の実現性を高めることができる
- コーディネーターは事前準備だけでなく、交流期間中は「通訳」としての重要な役割を果たす

財源の確保

- 行政との連携で財源の安定的確保が見込める（国庫補助で運営されている日本スポーツ協会の国際交流と同様の状況を市区町村レベルで実現するという方法）
- 既存大会と交流を抱合せ、出場者を交流参加者（日本人）に含めることで、宿泊費や交通費など（補助が出るような大会であれば）節約することができる

※今回はスポンサー料など別の財源情報がなかったため、次回以降、スポンサー料を財源としている交流を視察対象としたい。

行政との連携

- 前項記載のとおり、行政との連携・協力関係を構築し、地域におけるスポーツ関連政策の一環として国際交流を実施することで、交流の持続性や将来性が高まる

おわりに

今回、現地視察にご協力いただいた長岡京市体育協会の岡橋 様、長岡京市の梶原 様をはじめ、関係各位のお陰をもちまして、実際に地域間国際交流を運営している方々の率直なご意見、実施に至る経緯、または今後の展望を直接伺うことができ、大変勉強になりました。当日は台風の影響で午後の視察を中止したため、大会運営員や協賛社、両国参加者のお話を聞く時間が確保できず残念ではございましたが、今後の現地視察においてこれらの点をカバーし、地域間国際交流の実情や課題への考察をさらに深めていきたいと考えております。

最後になりましたが、本交流の開催にご尽力された関係の皆様から敬意を表しますとともに、視察にご協力いただいた皆様に改めて感謝申し上げます。

2018 年 9 月 13 日
報告者：国際課 高際

スポーツと、望む未来へ。



日本スポーツ協会
Japan Sport Association